

コンソーシアム便り

第15号

平成30年7月17日

工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野 祐司

平成30年6月13日、日本大学生産工学部津田沼キャンパスを会場として、平成30年度「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉（以下コンソーシアム）・第1回運営委員会及び第1回総会」を開催しました。

1

平成30年度 第1回運営委員会及び第1回総会

総会の内容は、以下の通りです。

(1) 報告事項

- ア 県外校視察について
- イ 各工業系高校の進路状況等について
- ウ 県立学校改革推進プラン・第4次実施プログラムについて
- エ 千葉県高等学校工業教育研究会 工業教育研究委員会について
- オ クリアファイル作成について



(2) 議事

- 第1号議案 平成29年度事業報告及び会計収支決算報告について
- 第2号議案 平成30年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について
- 第3号議案 工業系高校人材育成コンソーシアム千葉設置要綱の一部改正について
- 第4号議案 平成30年度会長等の選任について

(3) 協議

- 議題 工業系高等学校の発展に向けたコンソーシアムにおける今後の活動について

【小野会長】

コンソーシアムも平成26年度に発足して、これまでに企業、大学、専門学校、関係機関等からたくさんの方の御支援・御指導をいただきました。これは各学校における取組としてあらわれてきています。ある学校では朝自習や進学に向けての補習など、様々な学校の改革を進めてきています。

もう一つは、ここで出された御意見も影響したと思います。工業に関するコースを2校に設置することとなりました。私が今勤めているところは、理科のことばかりではなくて、情報や工業という言葉が頻繁に出てきます。

今日の朝日新聞デジタルを見たところ、日本の科学の力は非常に弱まっているという白書を閣議で決定しました。この白書では政府に対して研究への十分な投資や、若手研究者が腰を据えて研究に取り組めるような環境の整備を求めています。私どもも科学技術力がかなり弱まっていることを念頭に置きながら、どうやって子供たちに科学、技術を経験してもらい、興味を持ってもらうかが大事かと思っています。現在も取組が継続していますが、さらなるステップアップについて皆さま方から御意見、御指導賜れば幸いです。

(1) 報告事項

報告—ウ 県立学校改革推進プラン・第4次実施プログラムについて

石井主査（教育政策課）

県教育委員会では本年3月、県立学校改革推進プランの一部改定を行うとともに、改定した内容を含めたプランにもとづき、第4次実施プログラムを策定しました。その中で、普通科で工業に関するコースを設置することとしました。具体的には市原市の姉崎高校に「ものづくりコース」、富津市の天羽高校に「工業基礎コース」を設置します。

プログラムに明記している教育内容は大きく3つです。1点目はものづくりに関する基礎的な科目を学ぶこと。2点目は地元自治体や関係機関の教育を得ながら、連携企業における実施を重視したカリキュラムとすること。3点目は就職してから役立つ資格取得を目指すこととなっています。

現在計画しているスケジュールですが、本年度、校内準備組織の立ち上げ。平成31年度に教育課程の決定。平成32年度にもものづくりコース・工業基礎コースの設置。平成33年度より実習などコース選択者の実践的な授業が開始となります。

Q（千工会 石橋理事長） 工業に関するコースを設置されるということですが、募集人員は何名程度を予定されていますか。

A（教育政策課 石井主査） 決定はしていませんが、普通科に設置されるコースのため20～40人程度を想定しています。

Q（昭和電業社 深野様） 工業に関するコースを目指す生徒の育成像はどのようなものですか。例えば電気系や工業系、電子系を育成したいなどとありますが、ものづくりという広い範囲でくると、どこにこれを向かわせるのでしょうか。

A（姉崎高校 小野校長） 1年生で「産業社会と人間」という科目を全員履修して、工業に興味を持った生徒が2年生からコースを選択しますが、工業高校で勉強する内容から比べると、履修する単位数も少なく、基礎的な学びになると思います。また、将来、地元の工業系の企業に送りたいという生徒を想定していますので、「工業にはこんな分野がある」と興味を持ってもらいたいと思います。

報告—エ 千葉県高等学校工業教育研究会 工業教育研究委員会について

今まで、工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の運営では、千葉県高等学校工業教育研究会におけるコンソーシアム委員会の協力のもとで総会等を実施してきましたが、平成30年度千葉県高等学校工業教育研究会総会で同研究会の総則が改正され、工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の運営補助はコンソーシアム委員会に変わり工業教育研究委員会が行うことになりました。

(2) 議事

第2号議案—平成30年度事業計画

1. 運営委員会・総会他
 - (1) 平成30年6月13日 第1回運営委員会・総会
 - (2) 平成31年2月5日 第2回運営委員会・総会
2. 事業計画
 - (1) 平成30年9月29日 高校生理科研究発表会への参加
 - (2) 平成31年2月5日 課題研究等発表会
(県立現代産業科学館)
3. 情報発信・広報事業
 - (ア) 産業教育フェア（きぼーる）
 - (イ) 小中学校への理解促進の検討
 - (ウ) コンソーシアム便り発刊
4. 教職員研修
平成30年9月～11月に2回実施予定



平成 30 年度会計収支予算（案）について

昨年度は一般財団法人 千工会様より協賛金 10 万円頂き、有意義に使わせていただきました。今年度も協賛金として 10 万円頂きましたので、繰越金 8,402 円と合わせ、コンソーシアムの運営費他研究発表会等の費用として使わせていただきます。

また、昨年度まで千葉県高等学校工業研究会をとおして公益財団法人双葉電子記念財団様からいただいていた 2 月実施の生徒研究発表会における参加生徒の旅費につきましては、今年度から「生徒研究発表会に係る参加者旅費・運営費」として公益財団法人双葉電子記念財団様から直接助成いただくことになりました。今年度は 13 万円を助成いただき、2 月 5 日に予定しています生徒研究発表会で使わせていただきます。

第 3 号議案 工業系高校人材育成コンソーシアム千葉設置要綱の一部改正について

今年度から設置要綱を一部改正し、副会長 2 名を置くこととしました。

第 4 号議案 平成 30 年度会長等の選任について

今年度も小野会長並びに監事 2 名も留任で承認され、副会長としては玉川大学・教師教育リサーチセンターの中山 公央 様、千葉大学・高大接続センターの足立 欣一 様になりました。



(3) 協議

「工業系高等学校の発展に向けたコンソーシアムにおける今後の活動について」

事務局

今年度の方針ですが、工業の授業科目にあります「課題研究」における指導方法に関する職員研修「課題研究基礎コース」を昨年度に続き実施します。課題研究を進めるにあたり、専門的な知識や実験等が必要となり、大学、企業、研究所などに御支援をお願いするときに、コンソーシアム千葉のコーディネーターがその研究内容に応じた情報を収集していくことを考えています。

次に、先日、会員の株式会社昭和電業社様にはバーチャルリアリティ技術を活用した危険体験を生徒対象に実施いただくなど、会員の皆様には御協力をいただいております。今後もこのような機会を更に増やし、工業系高校における課題研究等にお力をいただければ幸いです。

それから、工業系高校で学んだ子ども達が工業系の大学、専門学校、企業等で活躍していることや、その工業系高校における学習内容などが中学生やその保護者に周知できていないこと、つまり中学校への PR が足りないということが喫緊の課題であり、その検討が必要であると考えています。

そして、来年度から更に新しい会員が増えるよう、今年度中に会員として入会いただけるよう何社かにお願いすることを予定しています。

小松校長（清水）

本校はくくり募集を行っています。私も 3 年目を迎えますが、今年、小中学校の先生方を対象に研修会をやったらどうかという意見が出ました。今年の夏中に一回実施してみたいと教員が話しております。地域が限定されますが、こういう取組を教員が提案してくれましたので、私は止めるつもりはありません。やってみたいと思っています。

もう一点は PTA 活動で研修を行っています。これを中学校に広めたらどうかと思っています。

坂本校長（千葉県中学校長会）

中学校の立場で言いますと、なかなか工業高校の状況が伝わってきません。千葉県の場合、普通科志向が非常に強いと思います。子供より保護者の意識が工業科より普通科の方が強いので、工業高校へ進んだ場合、進路として大学、専門学校、企業へということがしっかり伝わると良いと思っています。高校からも中学校にアプローチをかけていただき、保護者が見学に行ける機会をもう少し設けると、実際に工業高校ではどんな事を行っているのかがわかってもらえると思います。

今、中学校ではほとんどの学校で職場体験を行っています。職場体験は、近くの商店や事業所へ行って、3日間ほど体験してきますが、工場へはなかなか入れないのが現状です。もちろん安全面の問題等があると思いますが、こちらはアプローチがなかなか出来ないというのが正直なところですので、「こういうところだと中学生の体験が大丈夫ですよ」と言っていただけると助かります。また、子供が行ってみて、良かったという印象を残すことが発展につながると思います。

野崎校長（市川工業）

中学校の先生には工業高校を卒業した方がいませんので、工業高校を知らないのは仕方のないことですが、本校には中学校の先生における初任者研修の一環として1日研修があります。本校で色々な学科の様子を見ていただき「こういうところだったのか」と言って帰っていきます。

他に、本校の独自のやり方として、近隣の幼稚園・小学校・中学校・高校の初任2年目の研修を合同で行い、本校では半日かけて全学科を回ります。本校の職員もその日は小学校や中学校に行って研修を行っています。このように少しでも工業高校に理解を持っていただけるように頑張っています。

千葉工業高校の西澤校長先生ですが、前年度まで中学校に勤務されていました。中学校の保護者をバスツアーで近隣の高校を見て回るという活動をしていましたが、その中に市川工業高校も入れていただいて、保護者に理解を深めていただいたり、あるいは本校の職員が、中学校に出前授業に行かせていただいたりしました。

また、すぐ近くにある中学校と中高連携を図っていますので、中学2年生の子供達が本校に来て色々な研修をするというイベントも行っています。ただ、中学校の先生の話を見ると、中学生は大変忙しく、「更にイベントを割り込ませるとするのは中々難しいことです。」と、言われてしまうので、できることから一つ一つ増やして理解してもらえればと思っています。

小野会長

今総会でいただいた貴重な御意見をもとに今後のコンソーシアム活動に活かしてまいりたいと考えています。そして学校現場へ届け、工業高校がより良い方向へ進めるよう、教育内容に反映させていきたいと思っています。

クリアファイルの作成・配付

課題研究において、専門的な知識や実験等が必要となり、大学、企業、研究所などに御支援をお願いするときに、コンソーシアム千葉のコーディネーターがその研究内容に応じた情報を収集したり、教員の指導力向上を目指した職員研修を開催することをお知らせするため、右のようなクリアファイルを作成し、工業系高校8校の3年生に配付しました。



クリアファイル

工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局
 事務局長（千葉工業高校教頭）田口 英彦
 TEL 043-264-6251 FAX 043-268-5524